

廿日市市景況調査報告

(2019年10～12月)

～悪化 先行きは、不透明感拭えず、慎重な見方変わらず～

1. 全体の概要

業種別景況概要	全国(12月)		廿日市 10～12月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲ 21.7	▲ 22.8	▲ 28.1	▲ 3.2	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7	33.3	0.0	0.0	▲ 30.0	▲ 20.0
採算	▲ 23.3	▲ 25.0	▲ 6.5	▲ 19.4	18.2	▲ 27.3	0.0	0.0	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 30.0	▲ 20.0
仕入単価	▲ 36.2	▲ 31.3	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 36.4	▲ 18.2	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 20.0	▲ 20.0
雇用人員	23.1	23.8	31.3	28.1	27.3	18.2	50.0	50.0	42.9	42.9	20.0	20.0
業況	▲ 29.4	▲ 27.8	▲ 6.5	▲ 12.9	18.2	▲ 27.3	0.0	0.0	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 30.0	0.0

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください

(対象 169社 回答 31社)

全産業合計の業況DIは、▲29.4(前月比▲2.6ポイント)。都市部の再開発を中心とする民間工事は底堅く推移する一方、消費税率引上げ後から受注の減少も見られる建設業や、米中貿易摩擦・中国経済減速の影響が長引き、工作機械や産業用機械、自動車関連を中心に不振が続く製造業が全体を押し下げた。消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が落ち着き始めたとの声も聞かれる一方、消費者の節約志向の強まりや、世界経済の先行き不透明感、深刻な人手不足や人件費の上昇が引き続き中小企業のマインドを下押ししており、業況改善の動きは依然として力強さを欠いている。

【廿日市市の景況】 ～改善の兆しが見えるが人手不足が顕著～

前年同期比では、全産業合計の総合業況DIが▲6.5と、前回調査(1年9月▲31.6)からマイナス幅が25.1ポイントと大幅改善した。

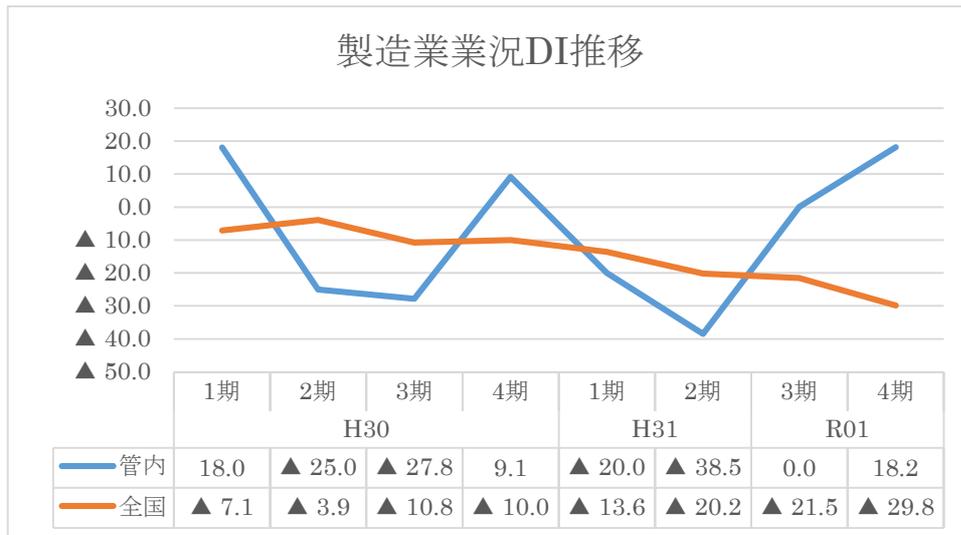
産業別の業況DIでは、前回前年比、見通しとも大きなマイナスであった建設業が今回は0レベルに改善している。(▲33.3→0.0)。製造業はプラス値へ改善しており(0.0→18.2)、卸・小売業(▲50.0→▲14.3)もマイナス幅が小さくなり改善している。反面、サービス業(▲20.0→▲30.0)はマイナス幅が大きくなり悪化している。

向こう3ヵ月(1～3月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲12.9と前回調査(1年9月▲42.1)からマイナス幅が大幅に減少しているがまだまだ先行きを不安視する傾向が強い。

全産業の景況推移、10月の消費増税の影響は飲食・サービス業では見られるが他の業種についてはまだはっきりとした影響は見られない。ただどの業種について「人材不足・人件費増加傾向」が顕著に表れており、全国調査と比べても厳しい状況がうかがえる。まだまだ景気の減速感による先行きの不透明感が強く感じられる。

2. 業種別推移

【製造業】



第1表 業種別生産指数（付加価値額ウェイト）

年・期・月	鉱工業	製造工業								電気機械工業(総合)			輸送機械工業	窯業・土石製品工業
		鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	一般機械工業(総合)	はん用機械工業	生産用機械工業	業務用機械工業	電気・情報通信機械工業	電子部品・デバイス工業				
10月	98.7	98.7	99.8	95.6	80.6	87.5	64.4	97.2	81.8	116.3	94.8	121.8	106.3	106.3
r 11月	96.3	96.3	89.6	94.0	85.0	85.6	90.4	84.8	75.7	114.7	96.7	119.3	104.0	97.0
p 12月	105.0	105.0	89.6	81.4	67.8	146.4	218.0	126.7	71.9	135.8	95.1	146.3	94.1	92.7
前年同月比(%)	0.2	0.2	▲ 11.2	▲ 16.6	7.6	15.3	15.6	20.3	▲ 32.2	17.5	▲ 12.0	24.4	▲ 6.5	▲ 4.8

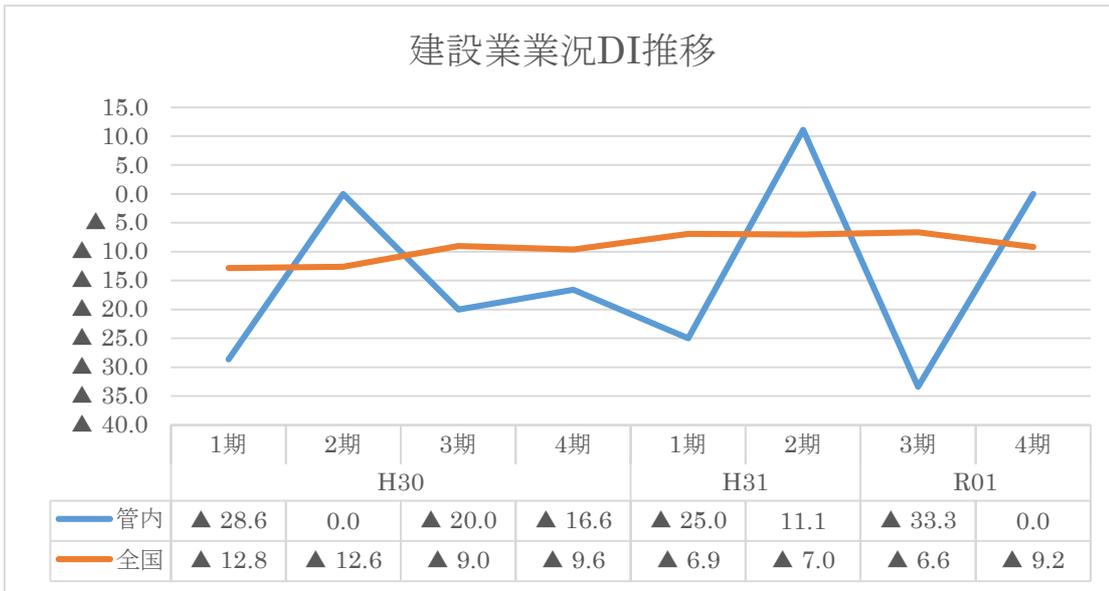
化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工品工業	繊維工業	食料品・たばこ工業	木材・木製品工業	ゴム製品工業	その他工業	家具工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合	機械工業	自動車部門	造船部門
95.0	107.1	110.6	104.2	69.3	65.9	92.7	86.6	98.5	83.3	95.6	45.1	97.9	103.7	105.6	95.6
94.6	106.2	94.3	82.6	71.8	61.8	87.9	91.8	87.5	93.0	103.4	40.4	95.5	101.6	108.3	78.5
89.1	110.1	102.8	74.7	74.8	67.3	90.0	82.4	89.0	80.6	110.1	43.0	104.1	116.5	95.3	81.5
▲ 7.9	▲ 10.5	▲ 7.6	▲ 14.3	▲ 3.7	▲ 37.6	▲ 10.5	▲ 14.9	▲ 21.5	▲ 12.7	12.7	▲ 55.6	▲ 0.6	5.3	▲ 8.1	3.2

《広島県鉱工業活動動向 業種別生産指数（季節調整済）》※広島県ホームページより

管内の業況 DI は前期 0 から 18.2 とプラスに上昇。一方、全国値は前期の▲21.5 ポイントからさら下がり▲29.8 と依然としてマイナス値が続いており、決して楽観はできない状況にある。

製造業の先行指数である、生産指数は 10 月、11 月と全体でも 100 を切っているほか、一部の業種を除いては概ね前月を下回っている状態で、生産が前月を下回っていることを示しているため、こちらからも依然として楽観はできない状況であることが読み取れる。

【建設業】



広島県 新設住宅着工戸数 (速報値) (令和元年12月分)														広島県土木建築局建築課	
														作成日 令和2年1月31日	
	合計	持家	貸家	給与	分譲	戸建	長屋建	共同建	木造	SRC	R C	鉄骨造	C B	その他	
県計	1,657	442	572	3	640	777	151	729	1,025	0	378	254	0	0	
廿日市市	75	27	24	0	24	59	4	12	57	0	0	18	0	0	

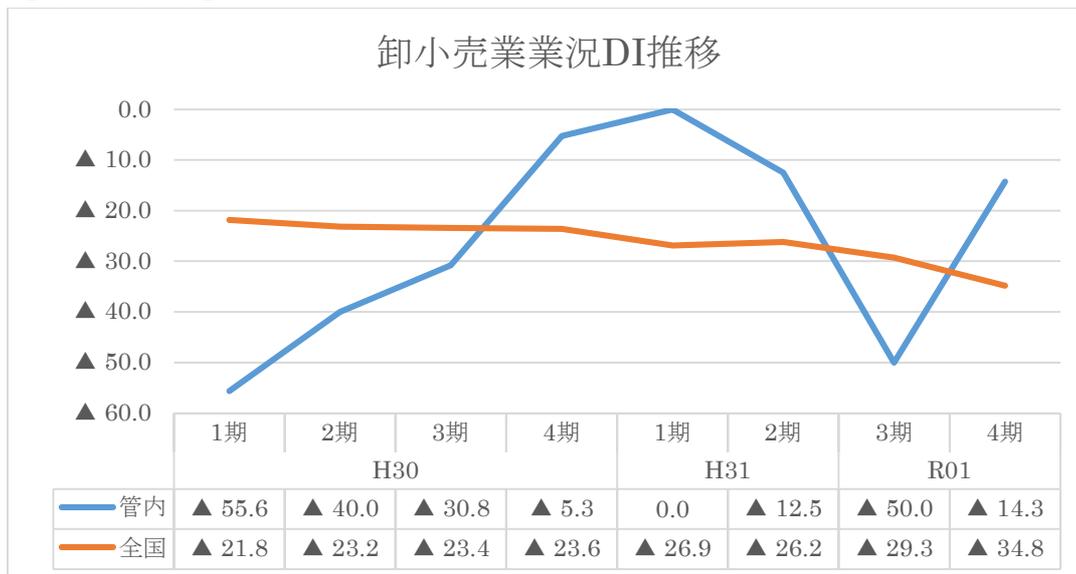
広島県 新設住宅着工戸数対前年比較表 (令和元年12月分)											
(単位：戸，%)											
	合計	対前年比	持家	対前年比	貸家	対前年比	給与	対前年比	分譲	対前年比	
県計	1,657	-5.7	442	-2.2	572	-34.4	3	-75.0	640	52.0	
廿日市市	75	-45.7	27	50.0	24	-71.1	0	-	24	-35.1	

《参考資料：広島県新設住宅着工戸数》 ※広島県ホームページより

管内の建設業の業況DIは、▲33.3から0へと改善した。一方で、全国値は前期▲6.6、今期▲9.2と依然としてマイナス傾向が続いており、業界としての厳しさが伺える。また、人手不足も激しい。

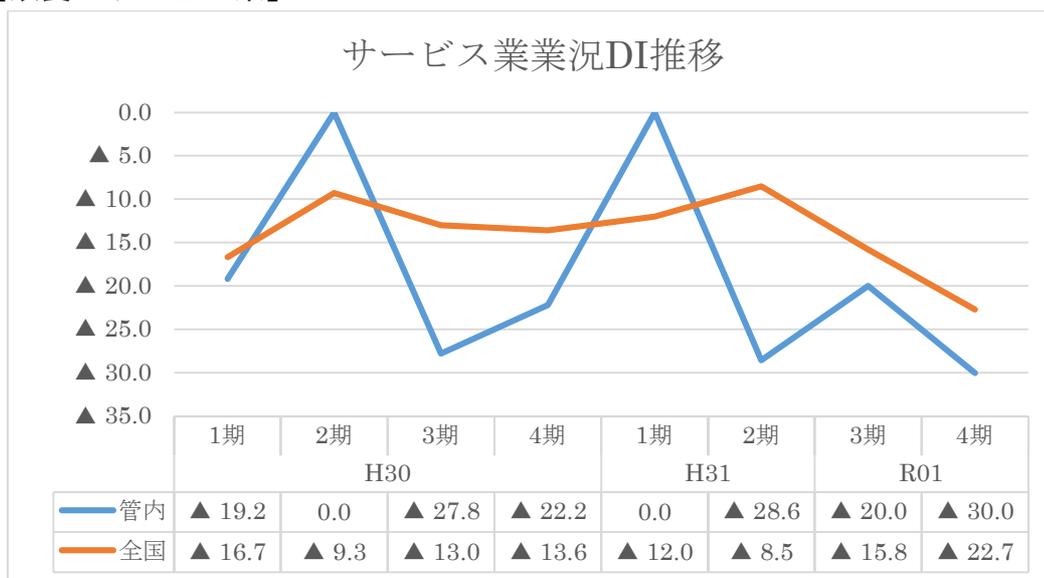
次に、先行指数である新設住宅着工件数であるが、広島県内、廿日市市ともに前年比を下回っていることが見て取れるため、年度末に向けての売上の伸びも厳しい予感が伺える。

【卸・小売業】



管内の業況は前期の▲50.0から▲14.3と若干の回復を見せているものの、全国値は前期の▲29.3から▲34.8と緩やかに悪化傾向で、厳しい状況であることが読み取れる。

【飲食・サービス業】



管内の業況であるが、前期▲20.0から▲30.0へと悪化を見せ、全国値も▲15.8から▲22.7と悪化しており、全国レベルでの景気悪化がみられる。

3. 今月のトピック

～2019 年を振り返る～

(1) 内閣府景気ウォッチャー調査からみる、肌感覚の景気動向

(11) 中国													
合計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）													
	回答者数（人）						回答者構成比（％）						D I
	合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	
2018年10月	166	3	40	88	33	2	100.0	1.8	24.1	53.0	19.9	1.2	51.4
2018年11月	167	4	36	88	34	5	100.0	2.4	21.6	52.7	20.4	3.0	50.0
2018年12月	168	4	29	85	42	8	100.0	2.4	17.3	50.6	25.0	4.8	46.9
2019年1月	169	4	25	91	40	9	100.0	2.4	14.8	53.8	23.7	5.3	46.3
2019年2月	165	3	25	98	33	6	100.0	1.8	15.2	59.4	20.0	3.6	47.9
2019年3月	167	1	28	90	40	8	100.0	0.6	16.8	53.9	24.0	4.8	46.1
2019年4月	166	2	34	86	33	11	100.0	1.2	20.5	51.8	19.9	6.6	47.4
2019年5月	169	2	27	78	55	7	100.0	1.2	16.0	46.2	32.5	4.1	44.4
2019年6月	167	2	17	95	44	9	100.0	1.2	10.2	56.9	26.3	5.4	43.9
2019年7月	165	2	18	92	46	7	100.0	1.2	10.9	55.8	27.9	4.2	44.2
2019年8月	168	3	17	91	47	10	100.0	1.8	10.1	54.2	28.0	6.0	43.5
2019年9月	165	5	16	89	46	9	100.0	3.0	9.7	53.9	27.9	5.5	44.2
2019年10月	165	1	11	70	63	20	100.0	0.6	6.7	42.4	38.2	12.1	36.4
2019年11月	166	3	16	70	60	17	100.0	1.8	9.6	42.2	36.1	10.2	39.2
2019年12月	167	1	18	78	51	19	100.0	0.6	10.8	46.7	30.5	11.4	39.7
2020年1月	165	0	22	77	48	18	100.0	0.0	13.3	46.7	29.1	10.9	40.6
家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）													
	回答者数（人）						回答者構成比（％）						D I
	合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	
2018年10月	115	2	32	54	25	2	100.0	1.7	27.8	47.0	21.7	1.7	51.5
2018年11月	116	3	27	55	26	5	100.0	2.6	23.3	47.4	22.4	4.3	49.4
2018年12月	117	3	21	53	32	8	100.0	2.6	17.9	45.3	27.4	6.8	45.5
2019年1月	118	2	19	55	34	8	100.0	1.7	16.1	46.6	28.8	6.8	44.3
2019年2月	116	1	17	63	30	5	100.0	0.9	14.7	54.3	25.9	4.3	45.5
2019年3月	116	0	20	56	32	8	100.0	0.0	17.2	48.3	27.6	6.9	44.0
2019年4月	115	1	29	54	22	9	100.0	0.9	25.2	47.0	19.1	7.8	48.0
2019年5月	118	1	24	49	37	7	100.0	0.8	20.3	41.5	31.4	5.9	44.7
2019年6月	117	1	16	59	32	9	100.0	0.9	13.7	50.4	27.4	7.7	43.2
2019年7月	114	1	15	56	35	7	100.0	0.9	13.2	49.1	30.7	6.1	43.0
2019年8月	117	2	14	61	30	10	100.0	1.7	12.0	52.1	25.6	8.5	43.2
2019年9月	115	5	15	58	28	9	100.0	4.3	13.0	50.4	24.3	7.8	45.4
2019年10月	115	0	9	47	40	19	100.0	0.0	7.8	40.9	34.8	16.5	35.0
2019年11月	116	2	16	52	32	14	100.0	1.7	13.8	44.8	27.6	12.1	41.4
2019年12月	116	0	14	53	32	17	100.0	0.0	12.1	45.7	27.6	14.7	38.8
2020年1月	115	0	16	51	33	15	100.0	0.0	13.9	44.3	28.7	13.0	39.8

この内閣府景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。

平成30年10月から令和2年1月までの「今後の景気の行き先」について、回答者を見てみると、「変わらない」がどの月も多いものの、2019年後半にかけては、やや悪くなっている、悪くなっているとの回答が増加していることが見て取れる。

これらから、肌感覚としての景気動向は年度後半にかけては悪化したことが読み取れる。

《参考資料：内閣府 景気ウォッチャー調査 12月》

※内閣府ホームページより

(2) 2019年ヒット商品ベスト5

～日経トレンドィによるヒット番付～

	商 品 名	予 測
1	ワークマン	職人向け作業服店が、見せ方一つでアウトドアショップに変貌。19年8月の売上高は前年比で約60%伸び、店舗数はユニクロ超え
2	タピオカ	ドリンクにもデザートにもなる「黒い粒」に長蛇の列ができ、輸入量は18年の4.5倍のペース。大手チェーンも参入し国民的飲料に
3	PayPay	2度の「100億円」キャンペーンなどで認知度を一気に高め、開始1年で登録者1500万人を突破。スマホ決済を普及させた立役者
4	ラグビーW杯2019日本大会	視聴率は最高41.6%。全国の試合会場とパブリックビューイングに延べ200万人以上が殺到し、日本のベスト8進出を後押しした
5	令和&さよなら平成	202年ぶりの譲位による改元で、列島が高揚。10連休中の旅行者数は2467万人と過去最高を記録し、元号グッズも多数売れた

(出展：日経トレンドィ 臨時増刊号より)

(3) 2019年ヒット番付

～日経MJによる2019年ヒット商品番付～

番付	東		番付	西	
	商品名	寸評		商品名	寸評
横綱	ラグビーW杯	9～11月に日本で初開催し、延べ170万人の観客を動員。にわかファンが急増。	横綱	キャッシュレス	消費増税に伴う政府の5%ポイント還元策が追い風となって、利用者や導入店が急増。
大関	令和	5月に平成から改元。祝賀ムードの中、新元号グッズやイベント、10連休での海外旅行など消費も沸騰。	大関	タピオカ	大手チェーン店も取り扱いを始め、1～10月の輸入量が18年通年の4.6倍に。
関脇	天気の子	異常気象が続く世界が舞台の新海誠監督のアニメ映画。興行収入は140億円で19年の国内興収首位	関脇	ドラクエウォーク	ドラゴンクエスト初のスマホ向け位置情報ゲーム。中高年が熱狂し、配信数は2か月で1000万を超えた。
小結	ウーバーイーツ	料理の代行サービス。配達エリアは10都市以上。	小結	こだわり酒場のレモンサワー	サントリースピリッツが発売した居酒屋の味わいを楽しめるレモンサワー缶。

(出展：日経MJ 2019年12月4日号より)